

明けましておめでとうございます。いよいよ令和6年度3学期のスタートです。大学受験組の3年生は、共通テストまであと10日となりました。1点にこだわる学習を最後まで諦めずに続けてください。現役は試験直前まで学力は伸びるので、それを信じて愚直に学習を続けてください。進路決定者は卒業まで学習を怠らないことはもちろんのこと、「島だち」までに、ボランティアなど島のために高校生である今しかできないことを実践してください。「人間力偏差値」を高めて「島だち」してくれることを期待しています。

さて、3学期は、年度で言えば最後の学期であると同時に、年の初めでもあります。皆さんに話す話題をいろいろ考えていたところ、ある教育用動画のタイトルに目が留まりました。そのタイトルは「なぜ人は新年に抱負を語るのか。はたしてそれは効果があるのか？」というものです。タイトルからすると、新年に目標を立てても効果は薄いという主旨なのかと思って見たところ、内容は逆でした。「効果はある」というものでした。動画の内容を大まかに説明します。被験者400人に年末、次のような質問をします。

「何か目標を立てたらどうですか」

この質問に対して、被験者の回答は大きく3つに分かれます。1番目のグループは「全く興味なし」。2番目のグループは「目標は立てるが、新年にはやらない」。3番目のグループは「新年の目標を立てる」となりました。その後の追跡調査では、2番目の「目標は立てるが、新年にはやらない」としたグループの2週間後の目標実践率は51%ですが、半年後にはわずか4%に急落します。一方、3番目の「新年の目標を立てる」グループの目標実践率は、2週間後は71%、半年後は下がりますが46%となっています。半年後であっても、2番目グループの実に4倍以上の実践率です。無視できない差ですねということです。

では、なぜこのような差が出るのか。動画によると、新年とは、多くの人が立ち止まって、これまでのことを振り返り、改めて自分の生活に意識を向ける、そういう時期だということです。

そう言われてみると、ジョン・レノンの名曲、「ハッピー・クリスマス」の出だしのフレーズも同じ主旨が含まれているような気がします。

So this is Christmas

And what have you done?

Another year over

And a new one just begun

「さあ、クリスマスだよ

君はどんなことをしてきましたか

また1年が終わっちゃったけど

新しい年が始まるよ」

この現在完了形の「What have you done?」がミソです。過去のある一時点で何をしましたかと尋ねる、「What did you do?」ではなく、1年間という長い期間を振り返り、その1年で君はどんなことをしてきましたかと尋ねているのが「What have you done?」です。それと同時に、新しい1年を迎え、未来を

見据えている。こういう行動を自然にできるのが、この歌においてはクリスマス及び新年ということなのかもしれません。

このように、自分の過去の行動を省みて、そこから学びを得、未来に向けて新たな自分を作っていくスキルの持ち主を、この動画によれば「Reflective Learner」というらしい。reflective の動詞形 reflect には、「ものが鏡などに映る」という意味の他に、「熟慮する・よく考える」という意味もあります。同じ「考える」でも、think とは違って、鏡に映った自分を見れば、自分の背後の様子も全て見えるように、もう過ぎ去った出来事を自分の頭の中に映し出して、それをよく吟味した上で考えるというのが、reflect の意味なのですね。そのように、自分の過去の行動をしっかりと振り返って検討し、自分の長所や短所を明らかにし、物事の優先順位を理解して、楽観主義と厳しい現実のバランスをとり、自分に実現可能な柔軟な目標を立てて、それを一つ一つクリアしながら学び、成長していける人が「Reflective Learner」ということなのでしょう。それが実行しやすいのが新年だというわけです。

この動画は、もう一つ興味深い考察を行っています。1月を表す英単語 January に注目しているのです。January の語源は、ローマ神話の神 Janus (ヤヌス) です。入口と出口を司る門(ゲート)の神で、1年の始まりの守護神といわれています。ヤヌスは頭に前と後ろを向いている二つの顔を持っていて、過去と未来の両方を見ているということです。そのヤヌスを語源にしたのが1月の January というわけです。この時期に過去を振り返って、未来の自分の成長のために新年の抱負を語ることに意義があるということと、全く無関係だとは思えなくなってきました。理屈ではうまく説明できないことが世の中には昔からたくさん存在していて、人間の行動の中にも、科学的には説明できないけれど、やってみたほうがいいことがあるのかもしれません。「新年に目標を立てて抱負を語る」こともその一つの例なのかもしれませんね。皆さんも昨年一年間を reflect して今年の目標を立ててみてはいかがでしょうか。

高校の3学期といえば、卒業を控え、次の進路を決めるための試験に臨む3年生が注目され応援されます。その3年生が必死に努力することは、当たり前のことでしょう。しかし、その陰に隠れて、頑張る3年生のサポーター面をして1・2年生がのんびりしていいわけではありません。むしろ、この時期に今までの自分を変え、成長していく努力をすべきなのは1・2年生なのです。体ばかりが大きくなっても、言動が子どもの頃と変わらないようであれば、それは人間的な成長とはいえません。一人でも多くの生徒の皆さんが、Reflective Learner となって日々、学習に取り組み、成長のための脱皮を繰り返してほしいと思います。

最後にもう一度確認させてください。3年生は大学受験組、進路決定者に関わらず、「島だち」までにそれぞれすべき努力を続けてください。そして、1・2年生。今日から与論高校の主演はあなたたちです。以上で3学期始業式の式辞といたします